日英対応

シンポジウムのご案内

主催：立命館大学教育・学修支援センター、共催：立命館大学教学部

# 新常態（new normal）における高等教育の展望

with/afterコロナの時代は、長期で考えるならばコロナの影響に右往左往するのみならず、在宅勤務をはじめ新たな生活様式を切り拓く時代でもある。高等教育においても、単にキャンパス入構が制限され、対面での教育の実施が困難になるという問題に限定することなく、Webを活用し、時間と場所にとらわれない新たな高等教育の展開を模索する時期でもあろう。

本シンポジウムは、高等教育に精通した国内外の著名な識者に登壇いただき、「新常態における高等教育の展望」を語っていただく。併せて、春学期以降の本学におけるコロナ対策の全貌に関する資料も提供し、今後の展望を検討する際の貴重な足がかりとしたい。

## 2021年1月29日（金）13:30～16:00

◆開催形式：Zoom（ウェビナー）
◆使用言語：日本語および英語（同時通訳）にて実施します
◆受講URL：お申込み頂いた方にメールでご案内いたします
◆対　　象：本テーマに関心のある本学教職員（附属校含む）、学外の大学関係者
◆参加申込：https://forms.gle/RphUi18tZp3SNRKh9　【2021年1月27日（水）23：59締切】

## シンポジスト

### Kerri-Lee Krause氏　オーストラリア・メルボルン大学学生担当副学長　【VODによる講演】

**経歴**

メルボルン大学学生部副部長代理・副学寮長代理。メルボルン教育大学院名誉教授。高等教育国際研究院生涯会員。高等教育基準委員会の副議長。オーストラリア副学長代理を構成員とする（学術）委員会の議長、オーストラリア女性大学執行役員会副議長兼任。

### 常盤　豊氏　元国立教育政策研究所所長／元文部科学省高等教育局長

**経歴**

1982年、文部省（現 文部科学省）に入省。
2004 年から初等中等教育局教育課程課長として、学習指導要領改訂の企画立案を担当。
その後、高等教育局私学部長、研究振興局長、高等教育局長、生涯学習政策局長を歴任。

### 川上　忠重氏　法政大学大学評価室長

**経歴**

法政大学理工学部教授（工学博士）。2009年～2012法政大学ＦＤ推進センター長、
2013年～2018年 FD推進プロジェクト・リーダーおよび2017年～(現在に至る)　法政大学総長室付大学評価室長。

## コーディネータ

### 沖　裕貴氏　立命館大学教育開発推進機構 教授

**経歴**

立命館大学教育開発推進機構教授。山口大学大学教育センター教授を経て、2006年より現職。大学教育学会、日本教育情報学会理事、中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会 委員等を歴任。専門は高等教育学、教育工学。

## テーマ／概要

### 高等教育と「コロナ後の日常」：課題と好機

**Kerri-Lee Krause（オーストラリア・メルボルン大学学生担当副学長）**

基調講演では、「コロナ後の日常に」へ世界規模で移行する際に、高等教育機関が直面する主要な課題と、捉えるべき好機のいくつかを掘り起こします。講演では、初めに、オーストラリアの高等教育の状況とコロナ禍によって高等教育諸機関が直面している問題について簡単に触れます。このような問題には、留学生市場が変化し、オーストラリアへ留学を希望する国際学生が渡航できないというコロナ禍の重大な影響も含まれています。オーストラリア国内で経験された課題の多くは、全面ウェブ授業への急速なシフトやカリキュラム設計の見直しなどの必要性などを含めて、国際的に共通のものと言えます。次に、学修、教育、評価と、コロナ感染の全世界的流行の結果起こった変化に焦点を当てます。特に、私たちが学んだ教訓を生かして、これからの１年間でさらなる改善につながる多くの可能性について考えたいと思います。講演の最後は、学生、教職員、教育機関にコロナ後の新しい日常がどのような影響を及ぼすかについて分析します。学生も教職員も同様に、困難な状況に柔軟に対応できる力や生きがいと希望をもって学んだり働いたりする力を付けるために、継続的な支援を必要としています。教育機関は、テクノロジーで進化する教育技術と、完全にオンライン化された評価への依存度の高まりによる変化にうまく対応すべく、さまざまな方法で学生と教職員の能力を伸ばすことに投資を惜しんではいけません。また、教育機関は、ITインフラなどの分野に投資し、コロナ後に生き残りを賭けるだけでなく、さらに発展を期すために必要不可欠な確固たるエビデンスの基盤を構築すべく、精力的に評価を行い学術研究に邁進することも大切でしょう。

### 新常態における高等教育の展望 ―多様性を生み出す新たな評価を―

**常盤　豊（元国立教育政策研究所所長／元文科省高等教育局長）**

技術の革新と社会の変化は、教育の在り方に大きな影響を与える。こうした予測がなされていたところ、我々はコロナ禍を経験した。変化の大きさと不透明さがさらに増すなか、コロナ後の新常態を模索しているというのが現状であろう。この講演では、まず、中央教育審議会がコロナ禍のなかで今後の教育の展望を示した「令和の日本型学校教育の構築」について紹介する。今後の高等教育の展望については、議論の土台となる「高等教育のグランドデザイン」と「教学マネジメント指針」に触れたうえで、今後の重要課題と考える「多様性を生み出す新たな評価」について問題提起することとしたい。先が見通せないことを逆に好機ととらえて、我が国の教育の課題である多様性を実現できないか、そのためには、多様性を許容し、多面的に評価する新たな評価の枠組みが必要ではないかとの考えである。

### 新型コロナ禍に対する法政大学での取組み ―今後の高等教育の方向性と問題点を踏まえて―

**川上　忠重（法政大学大学評価室長）**

2020年の春学期から緊急措置的に始まった法政大学での「学生の学びを止めない」ための取組みやアンケート結果、また、秋学期に実施された自己点検での振り返りを踏まえ、今後の「高等教育の方向性と問題点」について議論する一助としたい。

## タイムテーブル

- ◆ 13:30－13:35：開会の挨拶（教育・学修支援センター長）
- ◆ 13:35－13:40：趣旨説明（沖裕貴教授）
- ◆ 13:40－14:10：【VOD】高等教育と「コロナ後の日常」：課題と好機（Kerri-Lee Krause氏）
- ◆ 14:10－14:55：新常態における高等教育の展望 ―多様性を生み出す新たな評価を―（常盤豊氏）
- ◆ 14:55－15:40：新型コロナ禍に対する法政大学での取組み ―今後の高等教育の方向性と問題点を踏まえて―（川上忠重氏）
- ◆ 15:40－15:55：質疑応答
- ◆ 15:55－16:00：閉会の挨拶（教学部長）

【お問合せ】立命館大学 教学部 教務課　教育・学修支援センター事務局

TEL：075-465-8304　担当：山之江（yuka-y@st.ritsumei.ac.jp）
大　田（k-ota@st.ritsumei.ac.jp）